

## ビジョン連携推進会議第三分科会 第2回 開催概要

日 時	平成 27 年 10 月 23 日(金)
テーマ	多摩地域における取組事例 ～地域の担い手の活動～

### 議事要旨

#### ○ 八王子市の取組

- ・ 「はちおうじ未来塾」は市内の企業、特に中小企業の後継者を育成するために開校した人材育成塾であり、経営者としての気づきを得ることに重点を置いてカリキュラムを編成している。
- ・ 八王子市はものづくりのまちだが、製造業の減少や後継者問題が顕在化してきたことが背景としてある。
- ・ 受講終了後、卒塾生が、受講を通して得たネットワークの拡大やモチベーションの維持を目的とした自主運営組織を立ち上げた。中小企業で一番難しいのは、供給と需要のマッチングであり、コアな技術を有しているが横の連携が取れていないため、技術を活かしきれていないケースがある。この卒塾生のネットワーク組織は、半共同受注的な取組が行われるなど、新しいビジネスの可能性が出てきている。
- ・ 「はちおうじ志民塾」はシニア層をターゲットに、これまでの経験や知識を地域活動において活用し、地域活動の担い手の中心となる人材の育成に重点を置いている。
- ・ 背景として、団塊世代が大量退職し、地域に戻ってくる人を地域としてどう受けとめていくのかが大きな課題であった。
- ・ これまでの生涯学習講座は“学ぶ”ことを目的としているが、志民塾では“学ぶ”ことを目的化するのではなく、その結果をもとに“行動する”ことを目的としている。
- ・ 志民塾においても、卒塾生のネットワークが生まれ、講座の運営サポートなどを行う事例が出てきている。
- ・ 今後の課題は、実際の活動に結びついていない人を各ステークホルダーがしっかりと手を携えてフォローアップし、実際の活動につなげることや、卒塾生の選択肢が狭いため、より多くの活動を生み出してもらうための策を講じる必要がある。

#### ○ 武蔵野市の取組

- ・ 武蔵野市は、自治会組織がなく、コミュニティセンターを拠点とした地域コミュニティが中心となっている。
- ・ 定年前後の方に地域活動の幅を広げてもらうことを目的として、「お父さんお帰りなさいパーティ」を行っている。
- ・ 生涯学習的な取組として、市内および周辺にある5大学と連携し、「地域自由大学」の取組を実施している。高齢者が多く参加しており、福祉施策としては有効であるが、地域活動につながっている例は少ない。

- ・ 長期計画を策定するに当たり市民無作為抽出ワークショップを行っているが、市民意見の聴取はもとより、市政情報の提供、市政参加意識の醸成に効果がある。また、地域の担い手となるような人の発掘に有効である。
- ・ 地域活動に対する行政の役割は、①資金の支援、②広報の支援、③各種情報の提供、④事務の支援である。①に注目されがちだが、②のような信頼度を与えるもの、③の行政ならではの豊富な情報量などの支援の方法がある。
- ・ 新たな人材を発掘するにあたっては、防災やお祭りなど、多くの人が興味を持つイベントを活用し、常にスカウトするという思いが必要である。

## ○ 東久留米市の取組

- ・ 「東久留米柳久保小麦の会」は、東久留米伝来の柳久保小麦の継承を目的として、生産から販売までの一連の作業（6次産業）を行っている団体である。
- ・ 背景として、住宅地の多い東久留米市において、多種多様な機能を持つ貴重な地域資源である農地の保全は重要な課題であった。
- ・ 地域産業振興会議の設立に向けた準備会において、柳久保小麦を特産品として市の産業に結びつけることができないかとの提言があり、農業者・商業者・有識者・市により検討を行った。
- ・ その後、「東久留米柳久保小麦の会」が発足し、生産者・生産量ともに増加し、多様な商品開発が進み、現在は、食品にとどまらず、小麦を使用した工芸品を作る「東久留米ヒンメリの会」など活動の裾野は広がってきている。
- ・ 行政のみならず、商業者や有識者も含めて一つのグループの中で進んだことで、商業と農業、工業と農業といった異業種による結びつきを生み出した。

## ○ 意見交換

- ・ 産業振興や地域人材の育成は、長期的なスパンで物事を考えていかなければならない。地元団体との信頼関係が重要であり、行政はマニュアルにより引き継げない部分、志や信頼関係をどうしていくかが課題。
- ・ 市民無作為抽出ワークショップは、若い人や地域活動の中で活動してもらえる人を発掘するという点で非常に有効であり、普段出てこないような層からいかに発掘するのが重要。
- ・ 人には活躍する場所が大切で、ポジションメイキングが非常に重要。ポジションに当てはめていく上で、団塊の世代は経験も積み、高いマネジメント能力を持っているので、比較的容易である。そうでない人に対しては、育てるということも必要。
- ・ 地域活動といっても漠然としていると活動しづらい。居場所をどう作っていくか、福祉を中心としたつながりも、まちづくりの一つのあり方として重要。
- ・ 地域資源に関してどう強みを発揮していくのかという時に、ポジティブなものを生み出していくと、プラス思考で働いていい物ができる。そういう場をどう設定するか、行政が引き過ぎて入り過ぎてもよくない。どこまで関与するかさじ加減が必要。